



2022

S.C.P. Japan

年次報告書

一般社団法人S.C.P. Japan | Sport for Creating Pathways Japan





Sport for Creating Pathways

Contents

目次

- P.01～ S.C.P.Japanからのメッセージ／ビジョン・ミッション・アクション
- P.04～ 2022年の活動報告
- P.11 S.C.P.Japanを支えてくださった皆さま
- P.12 財務報告
- P.13 沿革・法人情報

Message

S.C.P.Japanからのメッセージ

社会が徐々にこれまでの生活を取り戻し、人と人とのつながりが増えた2022年。S.C.P.Japanにとっても、多くの人との出会いの中で新たなステージに1つ進んだ1年となりました。フルタイムの職員が3人に増え、活動を共にしてくださる助成団体、企業、協力団体も増えました。社会的信頼のある団体や企業と一緒させていただく機会も増え、着実に活動の輪が大きくなっていることを実感しています。

ダイバーシティ、インクルージョン、エクイティ、SDGs、サステナブル、レインボー...

昨今、人権や社会課題への意識が高まる中で、行政や多くの企業がこれらに関わる取り組みを加速させています。街やテレビの広告、SNSなど、日々の生活の中でこのような言葉やビジョンを目にする機会も増え、今まで以上に社会課題が身近なものとして意識されています。一方、これらの取り組みへの社会的価値が高まることで、言葉やビジョンだけが一人歩きし、本質を見失った、形だけの活動になってしまうことも少なくありません。

私たちがこの1年が目まぐるしく過ぎていく中で、駆け抜けることに必死で「なぜやるのか」「どこに向かっているのか」を見失ってしまいそうになることもありました。また、人権や社会課題に注目が集まることで、それに対する政治家の差別的な発言があったり、社会の反発的な意見を耳にすることも多くなり、「すべての人が尊重される社会とは何なのか」、私たちの目指す「一人ひとりが自分らしく歩んでいける未来をつくる」ことが、途方もない道のように思えることもありました。

そんな中で、私たちがこの1年間で折れずに駆け抜けられてこれたのは、社会を良い方向へ変えたいと願うS.C.P. Japanに関わってくださる皆さまのまっすぐな思いと、プログラムに参加してくれている子どもたちが周囲に配慮しながら純粋にスポーツを楽しむ姿に希望を感じてこれたからだと思います。

激動の1年を進む中で、何より学んだことは、一人ひとりが異なるバックグラウンドを持ち、生きてきた環境も経験も違う中で、共生社会づくりに「一つの正解はない」ということです。だからこそ、その時々で共にアクションしてくださる方と対話をしながら、正解かもしれない、と思える選択を重ねていくことでしか、道は切り開けないと感じています。

そして、すべての人たちが疑うことなく共通して持つ「人権」が尊重されているかということを常に心に留めておきたいと思っています。スポーツを通じた共生社会づくりを目指す私たちにとって、一人ひとりの尊厳が守られるスポーツ現場をつくることは、すべての活動においての土台となります。それぞれの活動の居場所を安心・安全にしていくためのセーフガーディングの活動にも、より一層取り組んでいきたいと考えています。

年齢、性別、性自認、性的指向、障害、人種、民族、出自、宗教、経済的地位など

一人ひとりを形づくるこれらのあらゆる個性や属性が、個人が生きたいと思いつく未来を阻む理由になることなく、自らの意思で自由な選択をそれぞれのペースで安心して歩んでいける。

明日すべてを変えることはできなくても、まずは目の前にいる身近な人たちを大切に、これからも少しずつ歩みを進めていければと思います。改めてこの1年間、活動を共にしてくださったすべての方にこの場を借りて感謝申し上げるとともに、次の1年「私たちができること」に向き合い、皆さまと共に活動を進めて参りたいと思います。

一般社団法人 S.C.P. Japan一同



Vision

一人ひとりが
自分らしく歩んでいける
未来をつくる。

Mission

自分らしく豊かに生きる力を養うスポーツの可能性を探る。
共生社会をスポーツを通じて推進する。
スポーツを共生社会づくりに活用できる実務者を育てる。



私たちの共生社会づくりアプローチ【創る・育つ】



多様な個人が出会い、
対話をして豊かな場を
共に創る。

個人を尊重し、
多様な他者と共に
生きていく人が育つ。

壊す 偏見や差別を取り除き
新しい価値を創る

既存の社会システムやルールを疑い、
偏見や差別を取り除く。また、それらを
生み出すシステムやルールを変革する。

私たちは、社会の偏った価値観によってできた制度やルール・社会構造を壊すこと、そしてそれらによって生まれてしまった特定の人たちに対する偏見や差別、無意識のバイアスを取り除くことが重要だと考えます。

私たちのフィロソフィー

共生社会づくりにあたって、私たちは身近にある小さな社会からのアプローチを考えています。まずは身近な人たちとの対話から、お互いの違いを認識し、受容します。そこから信頼を深めていくことで、「大切な人」という思いが芽生えます。その「大切な人」が生きづらさを抱えていたら、その人のためにできることをしたい。そして、その「大切な人」の「大切な人」に何かあれば、同じように大切にしたい。そんなふうにならざるを得ないのでしょうか。そこには「やさしさ」があります。そんな「やさしさ」の連鎖が、社会の大きな変化につながると信じています。多様な人たちが共に生きる社会の実現に向けて、お互いを大切にしたいと思う「やさしさ」で共有される、共通の「善いこと (Common Good)」を追求していきたいと思えます。

Action

私たちの3つの アクション

01

運動を通じた 共育プログラム

スポーツや運動をツールとする参加型アプローチを軸とした共育プログラムを提供しています。一人ひとりの違いに気づき、多様性の中でお互いが豊かに過ごせる空間を共につくる(ルールをつくる)経験を運動プログラムに組み込むことで、主体性を持って社会づくりに関わる個人が育つ場を提供します。

02

研修/啓発/調査

人種、国籍、性別、性的指向、出自などが、自分らしく生きていく上での社会的な障害・課題になっている状況を可視化し、その要因となる偏見や差別など無意識のバイアスを取り除きます。当たり前を疑い、新たな視点で考えるきっかけとなるような情報の発信を行っています。

03

交流

多様な人々が集う場をオンライン・オフライン問わず提供し、対話の機会をつくれます。交流を通して他者と出会い、対話することで、偏見やバイアスに気づき真実を理解します。様々な意見・価値観があることを知り、自分自身も多様性の中の一部であることを感じることができます。

Focus

私たちの5つの フォーカス

03 性的指向、 性自認、性別表現

スポーツ関連団体や企業と連携をしながら、LGBTQ+を含むあらゆる性の多様性を持つ人が、ありのままの自分でスポーツを楽しめる環境づくりと、スポーツを通じたLGBTQ+に関する情報発信を行っています。

01 あらゆる能力

障害の有無や種別等に関わらず、誰もがスポーツに参加ができ、一緒に楽しめる環境づくりを行い、それらの環境を増やしていくことでソーシャルインクルージョンの促進に取り組んでいます。

04 人権と スポーツにおける セーフガーディング

暴力やハラスメントなどの人権侵害を決して許さない安心・安全なスポーツ環境づくりを目指し「セーフガーディング」の普及及び促進のための研修開発と研修を通じた人材育成を行っています。

02 女性・女の子

女の子向けの運動プログラムや、サッカー部の学生に向けた金融教育、ジェンダー平等のための研修・講演及び情報発信などを行っています。

05 国際協力

日本国内に住む外国にルーツがある方とのスポーツ交流や日本のスポーツを通じた共生社会づくりのアプローチを諸外国に紹介しています。またアジアを拠点にスポーツを通じて社会課題の解決に取り組む団体のネットワークを構築しています。

Activity 活動報告 Report

- あらゆる能力
- 女性・女の子
- あらゆる能力×女性・女の子
- 性自認・性的指向・性別表現（SOGIE）
- 人権・セーフガーディング
- 国際協力
- 交流イベント ●その他の活動

Focus Type

あらゆる能力

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）との連携事業

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）と業務委託契約を締結し、JIFFの行うインクルーシブなスポーツ環境づくりに協力

JIFFが学校向けに行っている「JIFFインクルーシブ教育プログラム」の授業開発・授業の運営及び実施・授業講師育成のサポートを行いました。また、12月24日に東京都多摩市で開催された「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ」の企画・運営サポートも行いました。



FCバルセロナ財団との連携事業

FCバルセロナ財団のローカル協力パートナーとして、FCバルセロナ財団が日本で行う「ForAllCapabilitiesプロジェクト」のあらゆる活動をサポート

障害のある子ども・若者のソーシャルインクルージョンを目指したFCバルセロナ財団の「ForAllCapabilitiesプロジェクト」のもとで行われる、SportNet方法論普及のための指導者講習会・各種イベントのサポートや、SportNet方法論を用いた子ども・若者向けの運動遊びプログラムを実施しました。



ハッピーサッカー教室

月に一度千葉県柏市にて幼児～小学生を対象に運動プログラムを実施

障害の有無・性別・経済レベル・運動経験に関係なく誰でも参加できる運動遊びを行い、年齢や体格差がある中でお互いハッピーにプレー（遊ぶ）するためにはどうしたら良いか、運動の中で考えることで自他共に尊重する心や他者を理解する心を育むことを大切にしています。本事業は「子どもゆめ基金」から助成をいただいています。



FocusType 女性・女の子

プレー・アカデミーwith大坂なおみ事業の国内専門団体として連携

ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団の委託を受け、
イベントの実施や指導者研修、コミュニケーションをサポート

ジェンダー・インクルーシブな指導者のための研修、指導者がつながれるネットワーキング、指導者が手軽に現場に応用できるツールキットの開発を実施しています。また、10月11日の国際ガールズ・デーを祝して、2022年秋に開催された「ガールズ・スポーツ・フェスティバル2022東京 powered by プレー・アカデミー with 大坂なおみ」の企画・運営をサポートしました。スポーツや遊びを通じて女の子が楽しみながら交流する機会を創出するとともに、参加者のエンパワーメントに焦点を当て、リーダーシップや協力を学べる運動プログラムを提供しました。



©Play Academy with Naomi Osaka / Nike, Inc.

女性らしさから、ありのままの自分へ



多様な女子サッカー選手がありのままを発信する
「女性らしさから、ありのままの自分へ」動画の公開と
動画を活用したアウトリーチの機会を創出

Women Winが運営するONSIDE Fundのサポートと、女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」とプライドハウス東京の協力を受け制作した動画をプライド月間である6月に公開しました。10月にはWEリーグカップ決勝戦のハーフタイムにおいて、3,500人以上が集まるスタジアムの大型スクリーンで動画を発信しました。

スポーツを通じた金融教育

野村HDとS.C.P. Japanが協働して

NOMURA



スポーツを通じた
女性のエンパワーメントを目指す！

野村ホールディングスと、若年女性アスリートを対象としたエンパワーメントプログラムを始動。
女性のエンパワーメントを金融教育でサポート。

順天堂大学女子蹴球部、日本女子体育大学女子サッカー部の部員を対象に「ライフプランとお金の話」セミナーを実施しました。ライフプランに合わせた資産形成の方法について学ぶことは、女性が社会の中で自立していくことを経済的な面からサポートすることにつながります。約50人の大学生女性アスリートにお金についての知識を届けました。

FocusType あらゆる能力×女性・女の子

Find Funスポーツ教室



障害のある女の子向け
スポーツ教室の定期開催を開始

スポーツ活動へのアクセスに様々なバリアがある子どもたちが、スポーツを当たり前に楽しめるようにしたいという思いから、ナイキ・コミュニティ・インパクト・ファンドの助成と筑波大学体育系アダプテッド体育・スポーツ学研究室のご協力を受けて、知的・発達・精神障害等のある女の子向けのスポーツ(遊び)教室を7月から開始し、月に1回定期開催しました。

Focus Type

性自認・性的指向・性別表現 (SOGIE)

S.C.P.Japanは「プライドハウス東京」コンソーシアムに参画し、
アスリート発信チームの企画・運営団体として、スポーツにおける取り組みを行っています。
2022年度は、公益財団法人日本財団より助成をいただき、活動を強化し、より幅広い取り組みを行ってきました。

アウトリーチ・研修事業

LGBTQ+研修を通じた「スポーツ界の変革」とスポーツイベントや試合の場を活用した「スポーツを通じた情報発信」への取り組み

性自認や性的指向を理由に、誰もがスポーツを諦めず、スポーツをありのままに楽しめる場所にしていくために、本年度は、競技団体などに対して5回のLGBTQ+研修を実施しました。また、国際的なスポーツイベントや日本代表戦において、LGBTQ+ブースの設置やトークイベントの実施、情報冊子の配布などを行い、多くの人がLGBTQ+の情報に触れられる機会を創出しました。

キリンチャレンジカップサッカー男子日本代表戦(6月6日)

リポビタンDチャレンジカップ2022ラグビー男子日本代表戦(7月2日)

WEリーグ杯決勝戦ブース設置(10月1日)



アライアスリート研修

スポーツ界からLGBTQ+課題に対して共にアクションする アスリートの輪を広げる「アライアスリート育成プロジェクト」をスタート

性自認や性的指向、性別表現に関わらず誰もが安全にありのままに活躍できるスポーツ界と社会をつくりたいと願う、現役・元アスリートを募集し、全3回のトレーニングを2022年の8月～10月に実施しました。オリンピックやパラリンピアンを含むトップアスリート22人がトレーニングを終了し、「アライアスリート」として、スポーツの試合を通じたアウトリーチ活動や競技団体へのLGBTQ+研修を行いました。



運動を通じたジェンダー共育

スポーツ体験を通じ、性のあり方を否定せず スポーツできる機会を提供

スポーツを楽しむことに加え、社会にある「女らしさ」「男らしさ」を問い直したり、「自分らしさ」について考えるアクティビティを交えながら、対話することで自然とお互いの気持ちを知る運動の機会をつくりました。



FocusType 人権・セーフガーディング

スポーツにおける子どもの安全保護プロジェクト

すべての人が安心安全に楽しめるスポーツ環境をつくるため、
スポーツにおける人権を守る「セーフガーディング」の事業を開始

スミセイコミュニティスポーツ推進助成を受け、スポーツにおけるセーフガーディングの普及・促進のための事業をスタートさせました。2年間の助成の1年目にあたる2022年は、海外から講師を招いてスポーツ関係者向けにセーフガーディング研修を行い、そこでの成果や課題を踏まえて、日本の文脈にあった研修カリキュラム（基礎編）の開発を行いました。



プロスポーツクラブやスポーツ関係者を対象とした研修

Jリーグクラブをはじめとする様々なスポーツ団体を対象に、
スポーツにおける人権を守るためのセーフガーディング研修を実施

J2にトップチームを有する、ファジアーノ岡山アカデミーなどをはじめとする様々なクラブや団体と連携し、スタッフやコーチの方々に向けたセーフガーディング研修や勉強会を実施しました。また、各クラブ・団体が取り組むセーフガーディングポリシーづくりのサポートも行いました。



FocusType 国際協力

アジア・スポーツ・フォー・ ディベロップメント・ネットワーク



スポーツを通じて社会課題に取り組む団体のための
ネットワーク事業を開始。知識や経験の共有を通して、
アジアの取り組みをグローバルに発信していくことを
目指します。

2022年度からネットワークへの参画団体を募集。カンボジア、タイ、ニュージーランドで活動する3団体が創設メンバーとして確定しました。アジアの文化的特徴に合わせたプログラムの好事例をグローバルに発信するとともに、各団体の持続可能な団体運営のサポートを目指します。

日本×ASEAN「スポーツを通じた ジェンダー平等」推進事業



東南アジア10か国を対象とした
スポーツを通じたジェンダー平等事業をサポート。
国際会議に出席し、日本の取り組みの
発信をサポート

国際組織や海外政府関係者と連携して事業推進のためのコミュニケーションや、第8回IWG世界女性スポーツ会議（ニュージーランド・オークランド）での本事業の発表をサポート。最終日のクロージングではヤングボイスにメンバーが選出され、宣言文を各国若年リーダーと一緒に発表しました。本事業である、順天堂大学女性スポーツ研究センターによる「スポーツ・フォー・トゥモロー」事業「スポーツを通じたジェンダー平等推進事業」にS.C.P. Japanは専門団体としてサポートしました。

その他の 国際関係事業

オンラインで国際交流を実施。
また、国際会議でS.C.P.Japanの活動を発表。
スポーツを通じた課題解決に取り組む
団体の本部を訪問しました。

団体立ち上げ当初から協働しているスペインのFCバルセロナ財団の本部を訪問。FCバルセロナ財団と意見交換をしました。また、ニュージーランドのオークランドで実施された第8回IWG世界女性スポーツ会議ではドイツに拠点を置くディスカバーフットボールのセッションでS.C.P.Japanの活動を国際的に発信。さらに、ハーバースポーツ（ニュージーランド・オークランド）とオンラインでつなぎスポーツを通じた国際交流をしました。



交流イベント

BreakTalks

第五回オンラインイベント
BreakTalks
2022年6月29日（水）
20:00~21:15
★ ゲスト：松本 珠奈 さん
申込はこちら！
QRコード
テーマ：トランス女性とスポーツの現場

第六回オンラインイベント
BreakTalks
2022年9月22日（木）
20:00~21:15
★ ゲスト：稲葉 哲治 さん
申込はこちら！
QRコード
テーマ：エシカルな選択

多様なゲストや様々な活動をされている方を招いたBreakTalksオンラインイベントを開催

2022年は「私の人生をデザインする～自分らしく豊かに生きるために考えておきたいこと」「運動プログラムとゲームベースアプローチ（GBA）」「トランス女性とスポーツの現場」「エシカルな選択」をテーマに4回開催しました。女子サッカー留学をサポートするブリッジと、運動指導方法論の専門的知見を持つコーチトラストとも連携し、総勢約60人にご参加いただきました。

「動こう！遊ぼう！楽しもう」石川県金沢市で開催

石川県野々市市にて、おおくわこども食堂との コラボレーションイベントを開催

石川県金沢市おおくわ周辺を拠点に毎月1回こども食堂を運営する、おおくわこども食堂のご協力のもと「運動×食事」をテーマにイベントを実施。性別や年齢、障害の有無、運動の得意不得意に関係なく、誰もが楽しめる「ウォーキングサッカー」を行った後、お弁当を配布し、参加者の皆さんと食事を楽しみました。本事業はBreakTalksの一環で実施しています。



その他の活動 *Other activities*



**認定NPO法人サービスグラントの
プロボノ支援プロジェクトを受託
住友商事の「100SEED」の教育プロボノ支援を受け、
営業資料を作成しました。**

当団体の持続可能な団体運営のために、法人の皆さまに当団体の取り組みをご説明し、協働事業及び支援をお願いするための資料として活用していきます。資料作成にあたり、住友商事の社員の皆さまには、当団体のプログラムに参加していただいたり、細やかなヒアリングや関係団体へのインタビューをはじめ、寄り添ったサポートをしていただきました。

2022年の講演・研修実績

2022年も多くの皆さまに、共生社会や多様性についての取り組みをシェアし、対話をさせていただきました。27回の講演と研修を実施させていただきました。

1月8日	NPO法人Jキャンブ
1月22日	千葉県
1月26日	ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団
1月31日	杉並区スポーツ振興財団
2月4日	東京都体育協会
2月11日	Allyの森
2月25日	日産自動車×大和シルフィード
3月6日	外務省JENESYSプログラム青少年交流(ラグビー)
3月19日	Women Sport International

3月20日	日本スポーツ社会学会
3月26日	日本体育・スポーツ・健康学会
5月25日	European Union National Institute
6月16日	Women Win ONSIDE Fund
7月12日	ファジアーノ岡山アカデミー
7月14日	WEリーグ
7月28日	日本オリンピック委員会
8月11日	NPO法人Jキャンブ
8月31日	日本体育・スポーツ・健康学会

9月12日	順天堂大学 女性スポーツ研究センター
9月30日	国際協力機構(JICA)
10月1日	東京都体育協会
10月22日	国際協力機構(JICA) 青森
10月27日	東南アジア諸国連合(ASEAN)
11月4日	韓国スポーツ振興センター
11月4日	プライドハウス東京
11月14日	第8回IWG世界女性スポーツ会議
12月4日	NPO法人Jキャンブ

取材実績

2022年は6つのメディアに掲載していただきました。

聖教新聞、毎日新聞、公益産業研究調査会、『ELLE』誌、月刊『Wedge』、偕成社



S.C.P.Japanを支えてくださった皆さま

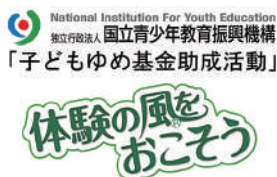
Everyone who supported us

助成団体一覧(五十音順)

〈ONside Fund〉



〈子どもゆめ基金〉



住友生命健康財団

〈ナイキ・コミュニティ・インパクト・ファンド〉



〈日本財団〉



〈FCバルセロナ財団〉



企業パートナー一覧(五十音順)

〈野村ホールディングス株式会社〉

シルバークロウパートナー



〈ハッピーライフケア株式会社〉

アライアンスパートナー



〈株式会社PR TIMES〉

サポートパートナー



〈株式会社モルテン〉



事業パートナー

〈日本障がい者サッカー連盟〉



〈プライドハウス東京〉



〈ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団〉



ボランティアでサポートいただいた皆さま

25名

財務報告

Financial report

正味財産増減計算書

令和4年1月1日～12月31日

(単位:円)

科目	金額
(1)経常収益	
基本財産運用益	114
受取寄附金	8,371,592
事業収益	15,958,069
受取助成金等	12,573,701
経常収益計	36,903,476
(2)経常費用	
事業費	22,259,564
人件費	11,196,199
その他の経費	11,063,365
管理費	2,344,487
人件費	1,225,391
その他の経費	1,119,096
経常費用計	24,604,051
当期経常増減額	12,299,425
一般正味財産期首残高	8,504,263
一般正味財産期末残高	20,803,688
正味財産期末残高	20,803,688

貸借対照表

令和4年12月31日現在

(単位:円)

科目	金額
I:資産の部	
(1)流動資産	
現金及び預金	21,292,441
売掛金	2,134,133
立替金	-
未収入金	-
流動資産合計	23,426,574
(2)固定資産	
1.特定資産	
2.その他固定資産	106,427
固定資産合計	106,427
資産の部 合計	23,533,001

科目	金額
II:負債の部	
(1)流動負債	
未払金	1,855,973
預り金	2,202,267
流動負債合計	4,058,240
(2)固定負債	
固定負債合計	-
負債の部 合計	4,058,240
III:正味財産の部	
1.一般正味財産	20,803,688
正味財産の部 合計	20,803,688
負債及び正味財産合計	24,861,928

沿革・法人情報

History・Corporate information

沿革

2020年	2月27日 一般社団法人S.C.P.Japan設立(法人登記) 7月 プライドハウス東京のコンソーシアムに加盟 8月 スポーツと国際協力事業を開始 10月 FCバルセロナ財団との連携開始、SportNet方法論を用いたプログラムを開始 スポーツを通じた共育プログラム事業を開始
2021年	4月 スポーツとLGBTQ+に関する事業を開始 日本障がい者サッカー連盟からの業務委託開始 5月 ハッピー／スマイルサッカー教室の開始 6月 BreakTalksの開始 8月 日本とASEAN諸国との、スポーツを通じたジェンダー平等事業サポートを開始 9月 WEリーグに関わる業務委託を開始 11月 ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団の国内事業サポート開始 12月 自主事業として初の地域プログラム開催(石川県金沢市)
2022年	5月 スポーツにおけるセーフガーディング事業を開始 6月 障がいのある女の子のための運動教室「Find Funスポーツ教室」を開始 8月 企業と協働でスポーツを通じた女性のエンパワーメント事業を開始 11月 第8回IWG世界女性スポーツ会議(ニュージーランド)でS.C.P.Japanの事業を紹介。 ヤングボイスにメンバーが選出される

法人情報

法人名	一般社団法人S.C.P.Japan(日本語名) Sport for Creating Pathways Japan(英語名)
所在地	〈本部〉 〒270-0111 千葉県流山市江戸川台東1-293-4 〈営業所〉 〒278-0014 千葉県野田市下三ヶ尾445-1
メンバー	野口 亜弥(共同代表) 井上 由惟子(共同代表) 繁浪 由希(理事) 橋本 紗英 折目 真地

Promise

私たちの約束

私たちは、日本ユニセフ協会の「**子どもの権利とスポーツの原則**」の趣旨に賛同し、幣団体が定めるセーフガーディングポリシーを遵守することを宣言します。S.C.P.Japanのセーフガーディング規定に則り、年に1回以上、スタッフ向けセーフガーディング研修を実施することを定めています。

私たちは、活動を通じて、国連が定める「**持続可能な開発目標 (SDGs)**」の達成に貢献することを目指しています。

特に、ゴール3、4、5、10、16に関わるプロジェクトを実施しています。



HP: <https://scpjapan.com/> | MAIL: info@scpjapan.com

Twitter: [@scpjapan1](https://twitter.com/scpjapan1) Facebook: [S.C.P.Japan1](https://www.facebook.com/SCPJapan1) Instagram: [s.c.p.japan](https://www.instagram.com/s.c.p.japan)